



学校と地域の連携に

1

地域の方々が子どもと先生の応援団に・・・

やさしいことばと温かい雰囲気の中でやる気満々！

むつ市立第一田名部小学校「一田小教育応援団」



この取組を紹介したわけ

歴史と伝統がある第一田名部小学校に、地域の人は愛着を持っています。平成18年度、学校と地域双方のメリットと一層の教育効果をめざし、地域のお年寄りによる「一田小教育応援団」が組織されました。

このような活動です

例えば、丸つけボランティアでは、対象学年が3つに分かれます。それぞれに3～4名のボランティアの方がついて、ドリルの丸つけが行われます。「よくできたね！」「がんばったね」「もう一回確かめてみてね」などやさしい言葉かけがなされます。子どもたちは、温かい雰囲気の中、よい表情で集中力を切らさず、取組を続けます。担任の先生は、特に支援の必要な子どもたちに関われるので、非常に効果的な時間となります。

このように進めています

6月ぐらいから始めて現在30名程登録されています。ボランティアの方は10分前に図書室に集合し、プリントと留意事項を確認し、3チームに分かれて担当教室に移動して活動を開始します。終了後図書室に戻り、情報交換・反省、次の時間の再打ち合わせが行われます。全ての時間の終了後、全体で反省・情報交換及び次回の確認がなされます。

ここまでのみちのり

この地区は、もともと教育に対する関心が高く協力的です。現校長はこれまで地域との連携を重視した教育活動に取り組み、その効果に十分な手ごたえを感じていました。現任教員においても学校支援ボランティアの方と学校教職員の力を結集することで、今以上の大きな力で子どもたちを育てることができると確信しました。



そこで平成18年秋、当時の教頭を中心に今なぜ学校と地域の協働が必要なのか、そのメリットやボランティアの内容についての研究をし、ボランティアの導入は手段であって、目的はより教育効果を高めることであるということを確認して、試行を開始しました。

成果・課題

- ◎子どもたちが集中力を切らさず取組を続けることができた。
- ◎50歳以上をボランティアの対象とし、お年寄りとのコミュニケーションの重要性や、お年寄りとの交流で子どもは成長してきている。

今後の活動

- ◎「一田小教育応援団」の皆さんから、活動後いろいろな感想や情報を得ることができ、普段の学習指導の参考になっている。
- ◎導入間もない活動だが、今後活用枠が広がる可能性を持っている。

3

地域コミュニティが学校を支える

コミュニティ組織やグループが支援

青森市立佃小学校における学校支援活動



この取組を紹介したわけ

佃小学校では、余裕教室が地域のコミュニティに解放され、ここでは様々なサークルが活動したり、地域を元気にしようと頑張っている市民グループが活動したりしています。

このような活動です

佃小学校のクラブ活動には、地域の市民グループやサークルの皆さんが、ゲストティーチャーとして参加しています。クラブとしては、昔の遊びクラブ・ストレッチクラブ・華道クラブが活動しています。感想として、「70年も前の遊びと一緒にやるので、童心に返り、若返る感じがする。」とか、「子どもたちが生き生きとしている。目標を持って、休まずに来るのでうれしい。」「楽しいです。子どもたちから元気をいただけて帰ります。」という声が聞かれます。

このように進めています

クラブ活動では、ゲストティーチャーが主体になって指導します。先生方もゲストティーチャーから学ぶところがあり、前向きに捉えています。その他、家庭科のアシスタントや学区探検でのサポーター、英語活導やパソコン指導でも支援を受けています。日頃から保護者や地域の方と関係を密にするようにしています。

ここまでのみちのり

平成10年、佃小に隣接しているところに「ウェザーパーク」が造られました。その中で、佃小の余裕教室を地域の生涯学習の場として使ってもらおうという話が出て、佃ふれあい教室が開設されました。さらに平成13年、もっと積極的に学校開放を目指すために佃ふれあい教室研究会が発足しました。



また、平成14年には「佃元気応援隊」が組織されました。これは、佃地区において健康で人と人が交流できる元気な町にしたいという目標を持った市民グループです。こういった団体は子どもたちを巻きこんだイベントを実施するようになり、学校を舞台にして地域全体の結びつきを強めるようになってきました。

成果・課題

- ◎クラブ活動を通じて、人と人とのつながりや関わりがよくなってきた。
- ◎学校に来た人が、学校の様子を地域の方々に話してくれることによって、学校への信頼感や応援しようとする機運を盛り上げてくれた。

今後の活動

- ◎地域の方が、学習発表会の総練習や自由参観日に、学校に足を運んでくれるようになり、続けていきたい。
- ◎「子どもも、保護者も、地域も、みんななかよく」を実現していきたい。

2

一人一人に学ぶ楽しさを

保護者がすべての学級で協力・支援

十和田市北園小学校 学校支援ボランティア



この取組を紹介したわけ

北園小では、10年ほど前に保護者による図書ボランティアが組織され、さらにベルマークボランティア、今年度から学校支援ボランティアとその活動が広がってきました。

このような活動です

保護者で組織された23名の学校支援ボランティアが、要請があればすべての学級、すべての授業に協力支援します。6月から12月までで家庭科、図工科、毛筆指導など技能教科を中心に、計42回、延べ185人の活動がありました。

夏休みの補習授業においては、丸つけボランティアが中心ですが、一人一人に目を配り、図などを使って説明などもしています。またボランティアは、自然に授業に入り、自然に支援しています。

このように進めています

教頭が窓口となって、全校に文書で応募しました。余裕教室を利用してボランティアルームをつくり、教員側から要請があれば、メールを使って連絡し、教頭が調整をしてボランティア活動を行います。また、説明会の場で守秘義務の確認を徹底しており、このことが保護者や教師、地域の人から認められている大きな要因になっています。

ここまでのみちのり

初めは教頭が中心となって、学校主導で計画が進みました。学校関係者に周知と理解を求め、ボランティアを募集し今年6月から始めることができました。

ボランティア活動開始後、活動していただいた方から、「とても楽しい」という声をいただき、ボランティアの輪が広がりに至っています。



今のところ大きな問題や課題はありませんが、長く続けていくために、ボランティアが「楽しい」という気持ちを味わうことが大事だと考えています。

また、ボランティアルームが充実したボランティア活動のために大きな役割を果たしています。

成果・課題

- ◎点数だけではない、学力の向上が見られた。
- ◎保護者が学校の実情を理解するようになった。
- ◎ボランティアが技能教科において、とても有効であり効果があった。

今後の活動

- ◎価値ある活動と思えるので、今後も充実させていきたい。
- ◎よりよい教育活動のために、学校独自でできないことは、地域や保護者の協力によってさらに充実できると考えている。

4

相互信頼に基づいた学校支援

「国語の書写指導」と「総合的な学習の時間の地域学習」における継続した支援

八戸市立白銀小学校



この取組を紹介したわけ

八戸市の白銀地域では、地元に住んでいる優れた技能や知識を持った方々を、白銀公民館に声をかけることをきっかけとして、教育活動にご協力いただき、子どもたちの学習に大きな成果をあげています。

このような活動です

毛筆指導においては、年間70日ほど、一日につき4、5人がボランティアとして来てくれます。教務主任がT1、ボランティアの方がT2、学級担任がT3となり、教室に7人ほど大人がいることもあります。

総合的な学習の時間では、郷土芸能として沖揚音頭・沖揚勇太鼓を、また、砂地が多いことから水くみ体験などの地域学習をボランティアの方と一緒に体験しています。その他、とうふ作り体験、いかめし作り、するめ作りなど多くの支援を受けています。

このように進めています

ボランティアの方々は師範級の腕前であり、書き初め大会を2日間にわたって行ったり、先生方の指導技術向上にも役立っています。また、ボランティアの方は図書室の畳スペースで授業開始を待ち、自然に活動しています。また、お世話になっているボランティアの方と一緒にご招待する、ありがとう集会を2月に開催しています。

ここまでのみちのり

毛筆指導は、当時の校長が、「毛筆セットがきちんと活用されているのか。」との疑問から始まりました。そして、白銀公民館に声をかけたことが最初のきっかけだったそうです。

今では、授業が始まる5分前には教室の後ろに待機していただき、子どもたち一人一人に細やかな指導をしてくれています。昨年度と今年度、青森県小・中学校書写紙展で、学校賞を2年連続で受賞しました。



その他のボランティアにおいても、地域の方は連絡があるのを待っている状態で、地域との連携を長く続けてきたことによるもので、もう人材リストはいらぬ状況になっています。

成果・課題

- ◎ボランティアの方は子どもたちから元気をもらっている。
- ◎ボランティア活動に価値を見だし、自分の意欲につながっている。
- ◎ボランティアの活動時間確保が難しくなってきた。

今後の活動

- ◎白銀に住んでいる方々とふれあいを深め、白銀の街をより好きになるような活動を今後も継続していきたい。

よる教育活動実践事例



5

だい好きな本をいっしょにじっくり読もう

総合的な図書館ボランティアが盛んな十和田市

十和田市立三本木小学校 図書ボランティア



この取組を紹介したわけ

十和田市の読み聞かせ活動率は小学校21校中、11校52.4%で行われ、さらに6校が図書館支援も行っています。十和田市は総合的な図書館支援を行っているが目立ちます。

このような活動です

三本木小学校では、現在保護者16名、その他卒業生の保護者やこの活動に賛同する方合わせて24名が図書館ボランティアとして活動しています。

5月の組織会をスタートに本の貸し出し、読み聞かせ、図書室装飾、読書集会を主な活動とし、3月の反省会まで、連絡袋、メール、FAXなどを駆使し、コミュニケーションをとるようにしています。

このように進めています

この活動はだれでもできることをアピールし、活動できる日を実施予定表に記入し、調整します。しかし、無理せずできるときにやることを確認しています。また、参加者、内容、感想などを記録するボランティア日誌を教務主任から受け取って記録します。図書担当や担任の協力は、活動する上で欠かせません。

ここまでのみちのり

平成8年、三本木小PTAの方々が、十和田市教育委員会主催の図書館ボランティア講座に参加していたのがきっかけとなって、活動が始まりました。平成9年には12~13名の応募があり、平成12年からは読み聞かせボランティアもスタートしました。

その後、十和田市教育委員会の協力もあり、三本木小の活動は市内の小学校のPTA研修会や参観日などでビデオ紹介されました。

十和田市が県内の他地域と大きく違うところは、図書館ボランティアが先で、その後読み聞かせボランティアが行われるようになってきたということです。



成果・課題

- ◎子どもたちに本を読む習慣がついてきている。
- ◎どのクラスも、絵のない長い本でも、集中して聞けるようになった。
- ◎ボランティアをすると生活に張りがある。

今後の活動

- ◎これからも長く続けていきたい。
- ◎保護者だけでなく地域の方にも参加してもらえるようにしたい。
- ◎図書館ボランティアOGによるサークルをつくり他校との交流を図りたい。

7

すべてのクラブ活動を地域のゲストティーチャーで

地域の人材を活用してクラブ活動の充実を図る

板柳町立板柳東小学校 4・5・6年クラブ活動



この取組を紹介したわけ

板柳東小では、授業の充実と地域の人とのふれあいを深めることを目指して、すべてのクラブにおいて地域のゲストティーチャーが中心となって活動しています。

このような活動です

今年度は次の7つのクラブが開設されました。お話クラブ、裂き織りクラブ、手芸クラブ、踊りクラブ、お囃子クラブ、お花クラブ、チャンバラクラブです。

お話クラブでは読み聞かせに使うパネルシアターの作品づくりを中心に活動しています。全校集会で発表できるようにがんばっています。

このように進めています

地域の人材は、当時の教頭がPTAの集まりや教育委員会から情報を提供してもらって探しました。学区外のゲストティーチャーの方もおります。

どのクラブも教員がついていますが、内容はゲストティーチャーに任せており、教員は指導しやすいように生徒指導面の配慮をするというように役割を分担して活動しています。

ここまでのみちのり

板柳東小では、学校が保護者や地域に信頼されるためには、地域の教育力を学校に生かすことが必要だと考え、地域の方々の協力によって先生だけではできないようなおもしろい体験活動を展開し、より効果的な教育活動を行ってきました。

また、板柳東小学校区では学校に協力したいという意識が強く、以前からその体制もできていたということでした。

これによりゲストティーチャーを探すことは、それほど難しいことではありませんでした。地域のこんなことを教えたいという思いと、学校側の地域の教育力を取り入れたいという願いが、うまく合致していたのです。

成果・課題

- ◎子どもたちの授業に対する意欲・やる気が育ってきている。
- ◎学校外でも地域の人とふれあいが深まっている。
- ◎ボランティアの方に学校のルールを学ぶ機会がほしい。

今後の活動

- ◎子どもたちと学校を気にかけてくれる人を増やしたい。
- ◎ボランティアや地域の人が集まる場所が学校にあればいい。
- ◎クラブだけでなく他の教育活動も地域の協力を得たい。

6

地域交流会と連携した学校支援

「学校の問題は地域の問題、家庭の問題でもある」としてとらえて、学区全体で学校を支援

平川市立柏木小学校 柏木小学校区地域交流会



この取組を紹介したわけ

柏木小は地域交流会が中心になり、家庭・地域全体で学校支援に取り組んでいます。中核となる運営委員会では、学区住民の意見や要望を反映させた活動計画を立て、学校運営協議会への発展性を持つ取組です。

このような活動です

- 学校と地域交流会が連携した活動
ファミリースポーツ大会、はげじょ大会、学習発表会など
- 地域団体、個人の協力
荒馬踊り指導、読み聞かせ、クラブ活動講師、花壇草取りなど
- PTAによる支援
交通安全指導、グラウンド整備、学校花壇植え付けなど

このように進めています

○学区地域交流会について
構成(約30名): 4町会会長、4自治公民館館長及び公民館主事等、4子ども会育成会会長、婦人会会長、シルバー会会長、PTA会長、校長、教頭など年間4回程度運営委員会を開き、活動計画や内容を検討しています。

ここまでのみちのり

平成7年度から3か年間、旧文部省の「学校と地域との連携に係るモデル事業」の委嘱を受け、実施母体として地域交流会が次の事業に取り組みました。①学校開放推進 ②各種講座等開設 ③世代間交流プログラムの開発・実施④子どもの学校外活動 ⑤伝統芸能後継者育成 ⑥家庭スポーツ・地域スポーツ振興。



委嘱期間終了後も自助努力と工夫により、交流会の活動は活発に行われ、さらに発展的な活動として、総合的な学習の時間やクラブ活動の地域人材活用、さらにPTA主体の交通安全指導、環境整備活動、バザー等の実施にもつながっています。

成果・課題

- ◎地域が学校の諸活動を理解し、協力が見られるようになってきた。
- ◎教職員の「開かれた学校づくり」の意識が高まってきた。
- ◎子どもたちの伝統芸能伝承の意識付けとなっている。

今後の活動

- ◎各分野、教科においてボランティアを増やしていく。
- ◎ボランティア同士が交流できる部屋を設置すること。
- ◎プライバシー保護や個人情報の扱いに関する学習会を設ける。

8

小規模校の特性と学校の立地環境を生かした年間を通した取組

子どもは地域の宝、地域総ぐるみで、学校教育活動の応援を!

むつ市立第二川内小学校



この取組を紹介したわけ

第二川内小では、体験活動を重視し、地の利を生かした様々な体験活動を、地域の方々の全面的な支援のもと実施しています。

本校の自然環境を十分に生かした多彩な活動を紹介します。

このような活動です

1年間を通して学校の立地環境を生かした活動を、地域の方々の支援のもと行っています。

校地の整備作業やワラビ折り、また「稲作」、「そば栽培」、「じゃがいも栽培」は総合的な学習の時間や生活科の時間に地域の方と一緒に活動しています。さらに、栗拾い、於法岳登山、陶芸教室など当地域を生かした活動をしています。また、ようこそ先輩、除雪、老人ホーム「せせらぎ荘」との交流など、多種多様な活動に取り組んでいます。

このように進めています

教育課程の編成期に、次年度の生活科や二川っ子タイム(総合的な学習の時間)の計画を立案し、主担当をじゃがいも栽培は低学年、そば栽培は中学年、稲作は高学年とし、それぞれの担当者が地域の方々と段取りや日程調整を行い、全体の取組にしていきます。活動推進の大きな力は、相互の信頼と地域に開かれた学校としてのあり方です。

ここまでのみちのり

昭和54年小学校モデル児童農園の指定を受け、畑作を教育活動の中に生かす取組をしてきました。平成4年には体験学習としての田植えを実施し、平成9年には全校そば切り会を復活させ、要所所で子どもの実態に合わせて活動を見直し、現在の取組に至っています。

学校の重点として、学校と家庭、地域社会との一体化を掲げ、学校が家庭や



地域と相互に信頼を深め、家庭や地域の教育力を生かすため、それぞれの役割を理解し合い、積極的に連携できるよう努めています。

子どもたちには、体験の中から学んだことを自分たちの生活や生き方に生かせるようにしてきました。

成果・課題

- ◎子どもたちに地域の方への感謝や協力が感じられるようになった。
- ◎活動自体が地域や家庭の話題となり、和と円満の糧となっている。
- ◎子どもたちが、仕事に取り組む人の真剣さや地域の良さを感じていた。

今後の活動

- ◎少子高齢化の影響で、体験活動の運営が難しくなっている。
- ◎地域が生かされた特色ある活動なので、困難を乗り越え、地域の方々と連携を深めながら、共に継続実施していきたい。